

平成29年4月3日

校長 平川 恒美

# 平成29年度 港区立高陵中学校 学校経営計画

## I 教育目標と目指す学校像

平成29年3月31日に公示された「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」に伴い、次期学習指導要領が発表された。その理念の内容を学校現場の教育課程に反映させ、新しい時代の担い手を育成する学校の使命を全うするよう、改善を図る。

多様性が特徴である公立中学校として生徒の育成を図る上で、改めて本校地域的特性を考慮して教育目標の内容を確認したい。次期学習指導要領の冒頭にある以下の部分を特に意識し、現時点では高い水準にある本校で、志ある人材の育成を目指したい。

「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」その期待に応えられる学校として地域連携を図り、理解・協力を求めていく。

学習指導要領を踏まえ、港区教育ビジョン(H26.10)の基本理念《すべての人の学びを支え つなぎ 生かす》を尊重する。港区学校教育推進計画(H27.2)での目指すべき子どもの姿《夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども》を、学校・保護者・地域との交流の機会を増やし、意見を取り入れながら追究していく。昨年度までの教育目標・目指す学校像について検討し、港区研究奨励校指定を活用して教育課程内容の修正と授業改善を図る。

理念が実践に結びつくよう、校内研究を充実させ、外部からの人材登用の機会を増やす。教育の成否は教師の志と指導技術に負うところが大きい。生徒・保護者・地域、また広く社会から尊敬され、信頼される質の高い公立中学校の教師集団を目指して学校づくりを推進する。

### 1 教育目標

- (1) 深く考え、進んで学習する
- (2) 責任を重んじ、規律正しく行動する
- (3) 心身を鍛え、情操を豊かにする。

### 2 目指す学校像

- (1) 確かな学びを展開し、学ぶ喜びを実感できる学校
- (2) 生徒一人ひとりの能力を伸長し、豊かな心をはぐくむ学校
- (3) 家庭・地域とともに歩む学校

## II 中期的目標と方策

生徒数の増加傾向にある現在、学級編成による教員定数は安定的な水準には達していない。平成27年度に4名が在籍していた主幹教諭は全て異動し、中心を担っていた人材に代わる中堅・若手の育成が喫緊の課題である。同時に教育課程内容の見直しを進め、業務改善を行っていく。また、平成29.30年度に港区研究奨励校の指定を受け、次期学習指導要領を踏まえた授業改善を計画的に行う。また、

港区の教育における基本的方向性を踏まえ、継続してきた中期的目標を尊重しながら、中教審答申、学習指導要領の改訂、道徳の教科化等の新しい施策について対応して、生徒の育成に努力する。

#### 1 「徳」「知」「体」を育む学びの推進

- (1)「徳」を優先する港区の方針を改めて確認し、他者を理解し思いやる教育、協調性や規範意識を育む教育を行う。
- (2)基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とその活用を図る活動を充実させ、生徒の実態に応じた指導方法の改善を進める。
- (3)基本的な生活習慣、食習慣に基づく健康な体づくり、年齢や成長の発達段階に応じた基礎体力、運動能力を身に付け、オリンピック・パラリンピック教育を通してスポーツに親しむ心を育てる。

#### 2 生き抜く力を育む学びの推進

- (1)一人ひとりの個性と能力を伸ばし、主体的に未来を切り拓いて生き抜く力を育成する。
- (2)意欲を持って自ら学び、他とのコミュニケーションを図り、課題解決を図る能力を育成する。

#### 3 地域社会で支えあう学びの推進

- (1)地域の学校として、家庭、高陵アカデミーの小学校、幼稚園との幼小中一貫教育を推進する。
- (2)家庭や地域の関係諸機関等との連携を強め、学校評価を実施し、保護者・地域の要望に応える学校づくりを進める。
- (3)地域社会の一員として、進んで社会に貢献しようとする態度を育て、生涯学習施設や図書館等を活用する機会を設定する。

#### 4 学びを支える教育環境の充実

- (1)教員が教育活動に専念できる環境の整備、現施設を活かした教育活動の工夫等について広く意見を求めていく。
- (2)東京都や港区の施策や様々な機会を活用し、外部人材等の活用を図る。

### Ⅲ 今年度の取組目標と方策

#### 1 教科の魅力を伝える学習指導の充実

- (1)教育活動全体を通して、言語活動の充実を図る。交流的・協同的な学びの理念や意義を校内に周知し、各教科の「深い学び」のための指導技術を共有していく。
- (2)数学・英語ではガイドラインに沿った少人数習熟度別授業を実施し、生徒の能力に応じた指導や興味・関心を高める指導方法を工夫する。
- (3)英語や英語科国際では、NTと連携して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、異文化理解を深める。
- (4)技術科や特別活動・総合的な学習の時間等でプログラミング教育を行い、生徒の人工知能への興味を広げ、将来につなげる端緒とする。
- (5)コンピュータ等の活用を図り、ICT機器を導入した指導方法を工夫し、学習への興味・関心を高め、効果的な学習を推進する。
- (6)音楽、美術、技術・家庭の指導を充実させ、芸術作品に触れる機会やものづくりの活動を通して感性を磨き、豊かな情操を養う。
- (6)道徳の時間を中心とした全教育活動を通じて心の教育に取り組み、他者を思いやる心、自立心や責

任感を育てる。

## 2 生活指導の充実

- (1) いじめや差別は絶対に許されない行為であることの指導を徹底し、学校いじめ防止基本方針に基づき、日常の情報交換を大切にして、いじめの未然予防、根絶を目指す。
- (2) 全生徒対象の相談機関を設け、生徒理解を深めるとともに、いじめや不登校等の問題解決のためのいじめ防止検討委員会を継続的に実施し、組織的な対応を図る。
- (3) 小規模校の特徴を生かしたきめ細かい教員の生徒観察・指導を活かし、日常から言語環境を整え、あいさつ運動を推進して自然なあいさつができる環境を整備する。
- (4) 保護者や関係諸機関と連携して、SNSの利用についての学校、家庭のルール作りを進め、情報モラルの育成を図る。
- (5) 公共の精神を尊び、互いの人格を尊重する心、生命尊重の精神を育成する。

## 3 特別活動・特色ある活動の見直しと深化

- (1) 朝読書の一層の定着を図り、リーディングアドバイザースタッフと連携して、創意ある読書活動の推進に努める。
- (2) 伝統的な日本文化と、諸外国の生活文化の相互の尊重を図り、国際理解教育の際の自国の文化への関心を深める。
- (3) 部活動を充実させ、スポーツや文化に親しませると共に、連合行事への参画を学校全体で取り組み、生徒の責任感や連帯感を育む。

## 4 学校運営

- (1) 家庭・地域の一層の理解・協力を得るため、土曜日や学校公開期間を中心に保護者や地域住民に教育活動を公開する機会を多く設定する。
- (2) 学校だよりやHPを通じて学校からの情報発信を行い、学校、保護者、地域の相互信頼感を深化させる。
- (3) 地域の教育力を学校教育に活かし、生徒、保護者、教職員が地域と積極的に交流し、相互に連携・協力した教育活動を推進する。
- (4) 高陵アカデミーの幼稚園、小学校との授業や学校行事等への積極的な参加を促し、小中一貫教育コーディネイターを中心とした学校間の連携強化に努める。
- (5) 教職員の研修を充実させ、言語活動を取り入れた体験型の活動を設定する等、生徒を話題とした意見交流の場を計画する。
- (6) 教育公務員としての服務規律を遵守し、法令や判例を示す等して信用失墜行為のないよう、サービスの厳正に努める。
- (7) 特別支援教育への理解を深め、生徒の行動への視点・観点を広げられるよう指導技術の充実を図り、生徒指導と保護者対応の具体的方策を外部と連携して進める。